

# いま生きている過去

三谷 博

総合文化研究科

俯瞰講義 2009冬

「※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。」

国民史のもつ難点とその克服法をさぐる  
学問としての歴史は何ができるか

## 第3回 「国民史」を超えて

- ミニ・レポートへの応答

- 1) 隣国民の記憶への対処には、過去と距離をとり、  
心理的な余裕をつくること

- 2) 短期に片付かない長期問題と覚悟すること

- 3) 先方のいま抱えている問題状況もよく観ること

問題の構造を理解していれば、落ち着いて、臨機に  
対応できる。

# 1. 「国民史」の抱える問題点

- ・加害・被害の関係でない場合でも

韓国・中国の高句麗・渤海問題

← 現在の「国民国家」枠組みの過去への投影

1) anachronism (時代の取り違い)

歴史学: 過去の社会の組立ては現在と違う

からこそ研究する価値がある

「歴史物」小説・TV番組: 過去を舞台とする

現代社会の投影・再演

2) 国際関係の不安定・自国利益の阻害

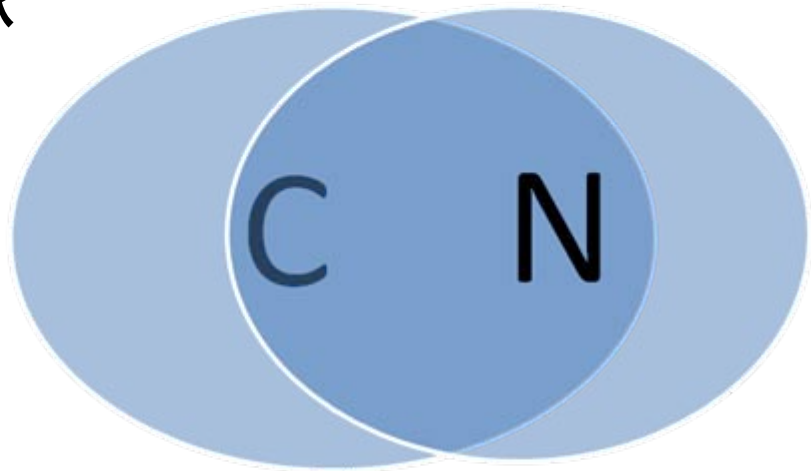
- 国民と市民のアイデンティティ

- 共同性の確保

帰属感・責任感がなければ、秩序は成立たない  
(強制に依存しない、「自発的」な)

納税 投票 協議 裁判員。。

- 国民と市民の文脈



## 2. 司馬遼太郎(1923-1996)の『坂の上の雲』

産経新聞連載:1968-1972

単行本刊行(6巻):1969-1972

TVドラマ化:2009-2011

・秋山好古(騎兵)・秋山真之(海軍)・正岡子規

・最初の巻は日清戦争まで

大部分は立身出世＝国家の発展

子規の文学もその一部

・約5／6が日露戦争

「このながい物語は、その日本史上類のない  
楽道家たちの物語である。やがてかれらは日  
露戦争というとほうもない大仕事に無我夢中  
でくびをつっこんでゆく。・・・楽道家たちは・・・  
前をのみ見つめながらあるく。のぼってゆく坂  
の上の青い天にもし一朵の白い雲がかがや  
いているとすれば、それのみをみつめて坂を  
のぼってゆくであろう」(第1巻あとがき)

## (1) 植民地か、帝国主義国か

「日露戦争の原因は、満洲と朝鮮である。

満洲をとったロシアが、やがて朝鮮をとる。

これはきわめて明白である。日露戦争に  
もし日本が負けていれば、朝鮮はロシアの  
所有になっていたことはうたがうべくもない」

(文庫本3-68)

「一九世紀からこの時代にかけて、世界の  
国家や地域は、他国の植民地になるか、  
それがいやならば産業を興して軍事力を  
もち、帝国主義国の仲間入りするか、その  
二通りの道しかなかった」(文庫版3-173)

年表 1900 義和団事件 列強出兵

ロシア、満洲から撤兵せず

1901 満韓交換交渉不成立

1902 日英同盟成立

1903 ベゾブラーゾフ、鴨緑江木材会社設立  
対露同志会、満洲撤兵要求決議

1904 2月 開戦

1905 1旅順陥落 3奉天会戦 5対馬海戦  
9 ポーツマス講和条約締結  
11 日比谷焼き打ち事件

- もし日本が負けていたら？

- ロシアの満洲全域・朝鮮半島支配  
多分、そう

しかし、日露戦争が起きなかったら？

- 満韓交換   ロシアの満洲全域支配  
日本の朝鮮支配

ロシア皇帝ニコライ二世はそう願っていた  
戦後は日露協商で、類似の解決

- ・固定的二分法は正しいか

1880年代 日本政府は朝鮮半島中立化政策

甲申政変(1884)以来、漢城に袁世凱駐在

1890年 山県有朋首相「外交政略論」

ロシアを主敵とする、日清提携、英独引込み  
による朝鮮半島中立化

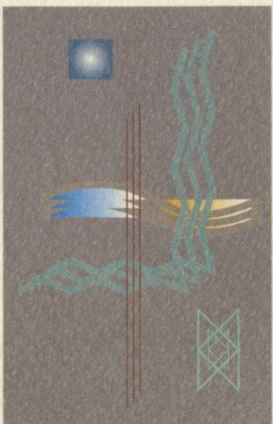
ここから日清開戦までは4年間

- ・政策選択、経路依存の重要性 (必然)

ジョセフ・ナイ『国際紛争』有斐閣

# 国際紛争

理論と歴史



ジョセフ・S・ナイ 著

田中明彦／村田晃嗣 訳

Understanding International Conflicts  
An Introduction to Theory and History

有斐閣

国際紛争

ジョセフ・S・ナイ 著

ジョセフ・S・ナイ 著

有斐閣

- ・司馬遼太郎の戦争観・帝国日本観

『昭和という国家』(1986→1999)

『明治という国家』(1989→1989)

戦争自体への批判はない

必敗の道、特攻批判

非合理的戦術・武器軽視への批判

それを許した軍人・官僚・メディア批判

小説形式によって、ほぼ毎回挿入

映像でそれはできるか？

## (2) 日露戦争は対戦者だけのものか？

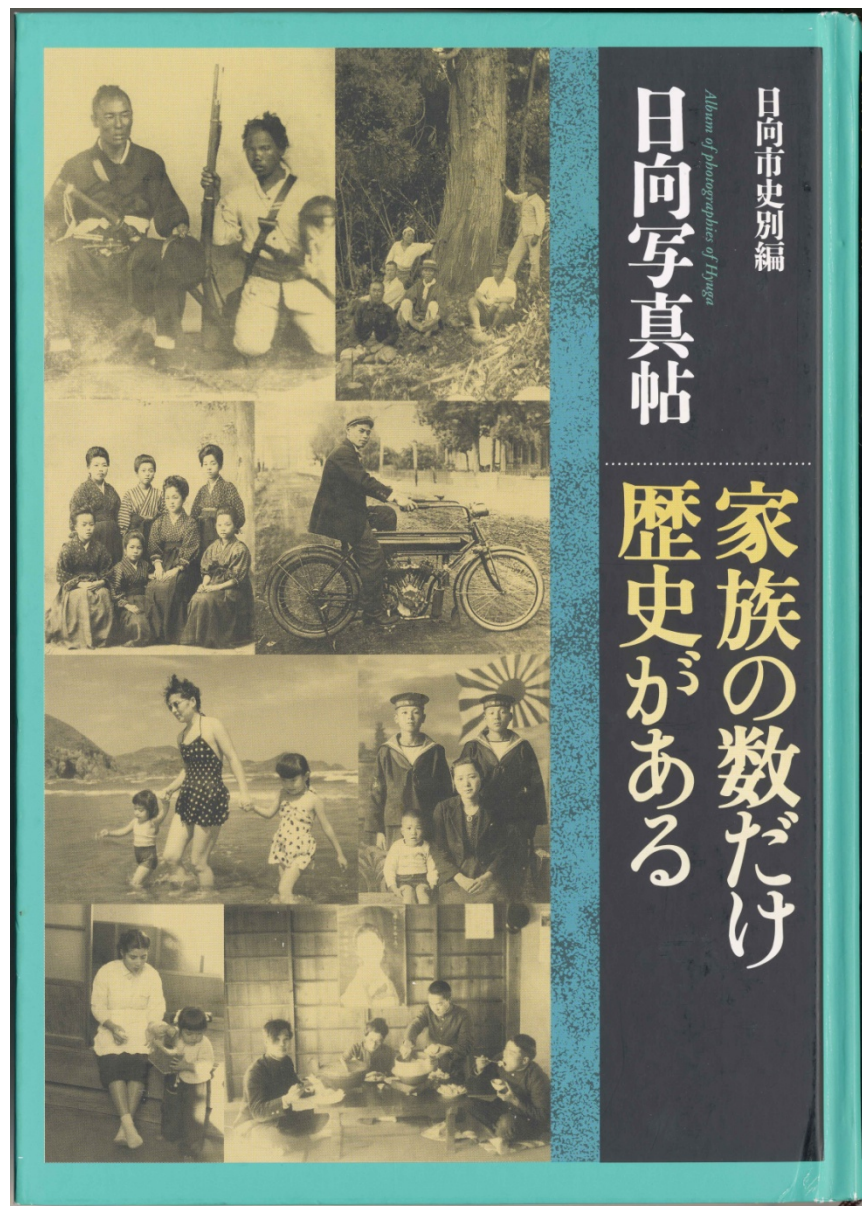
- ・日本側
- ・ロシア側
- ・対西洋資金工作・諜報工作・講和工作

しかし、どこに？

- ・餌食にされた人々
- ・住み処を戦場にされた人々
- ・その他 日本戦勝に鼓舞された人々

### 3. 代案1 家族史

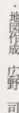
有馬学十日野文雄  
日向市役所



## ● 目次



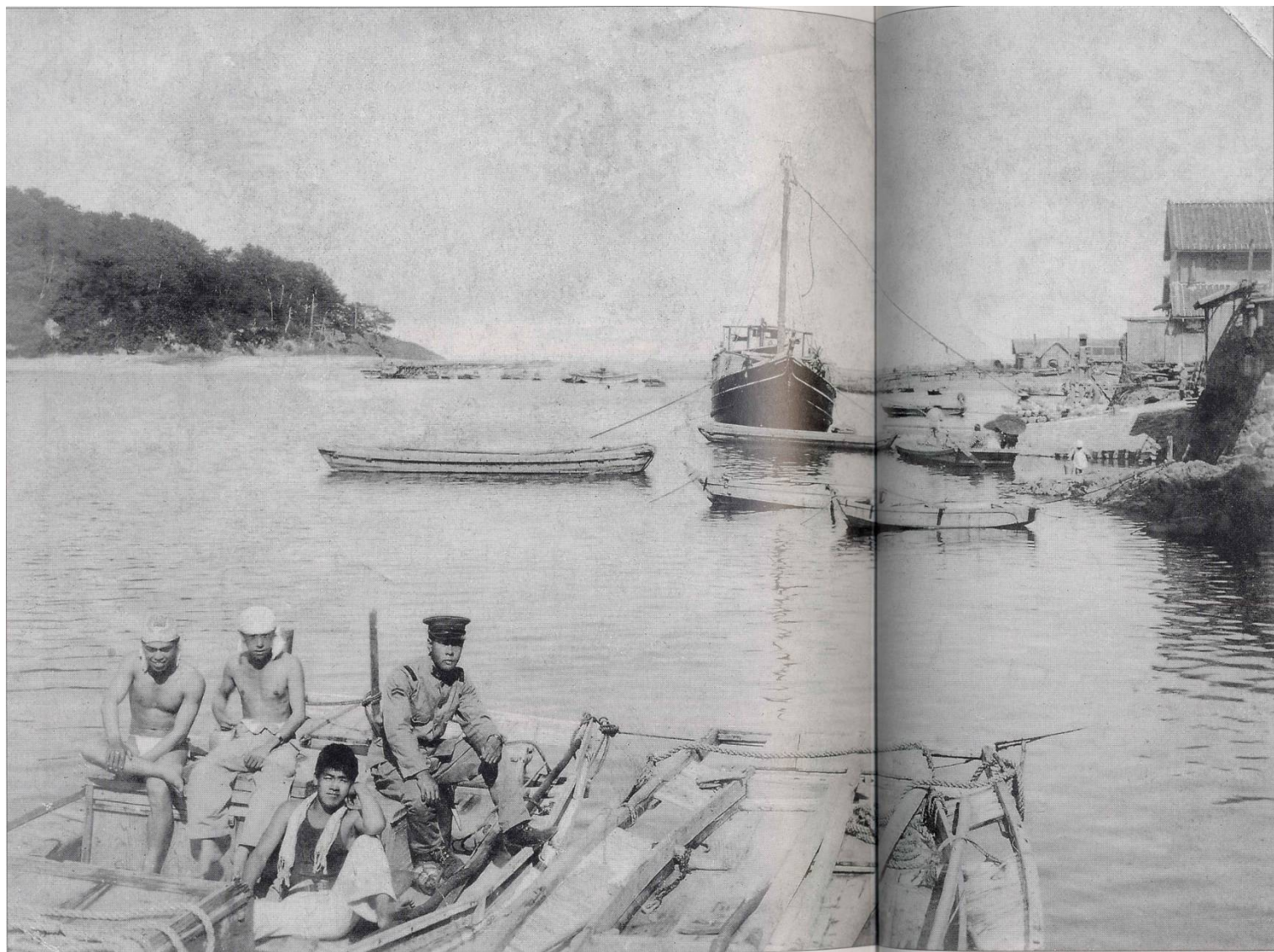
石井忠（湧着物学会会長）





撮影 黒木 豊





家族の数だけ歴史がある……………●目次



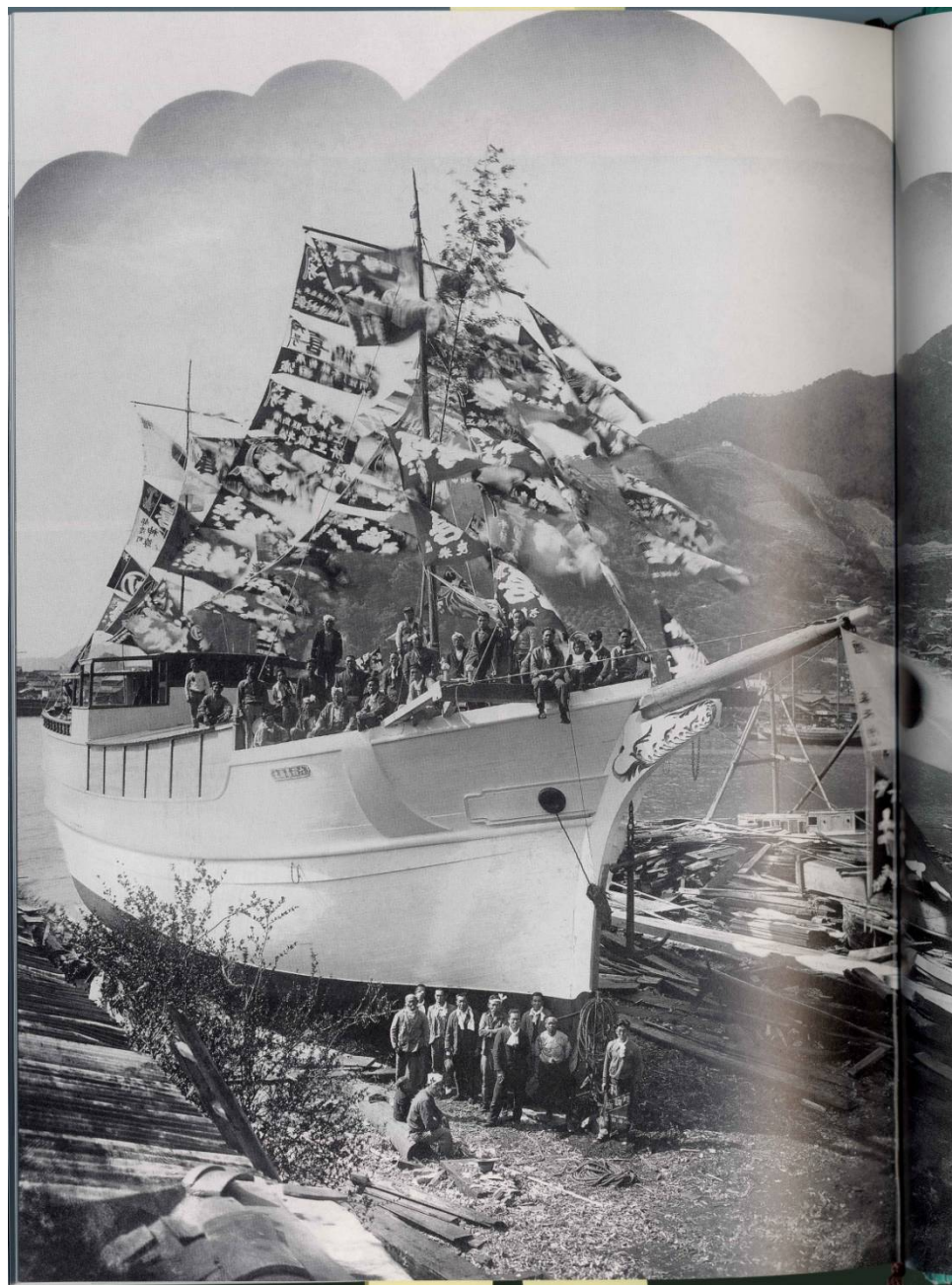
古くは孝徳紀白雉五（六五四）年吐火羅國人らが日向に漂着したことが記され、近くは十七世紀初頭、蘭船リッデ号が豊後沖を漂流、十九世紀中頃豊後浦江に江南の漁船が漂着している。

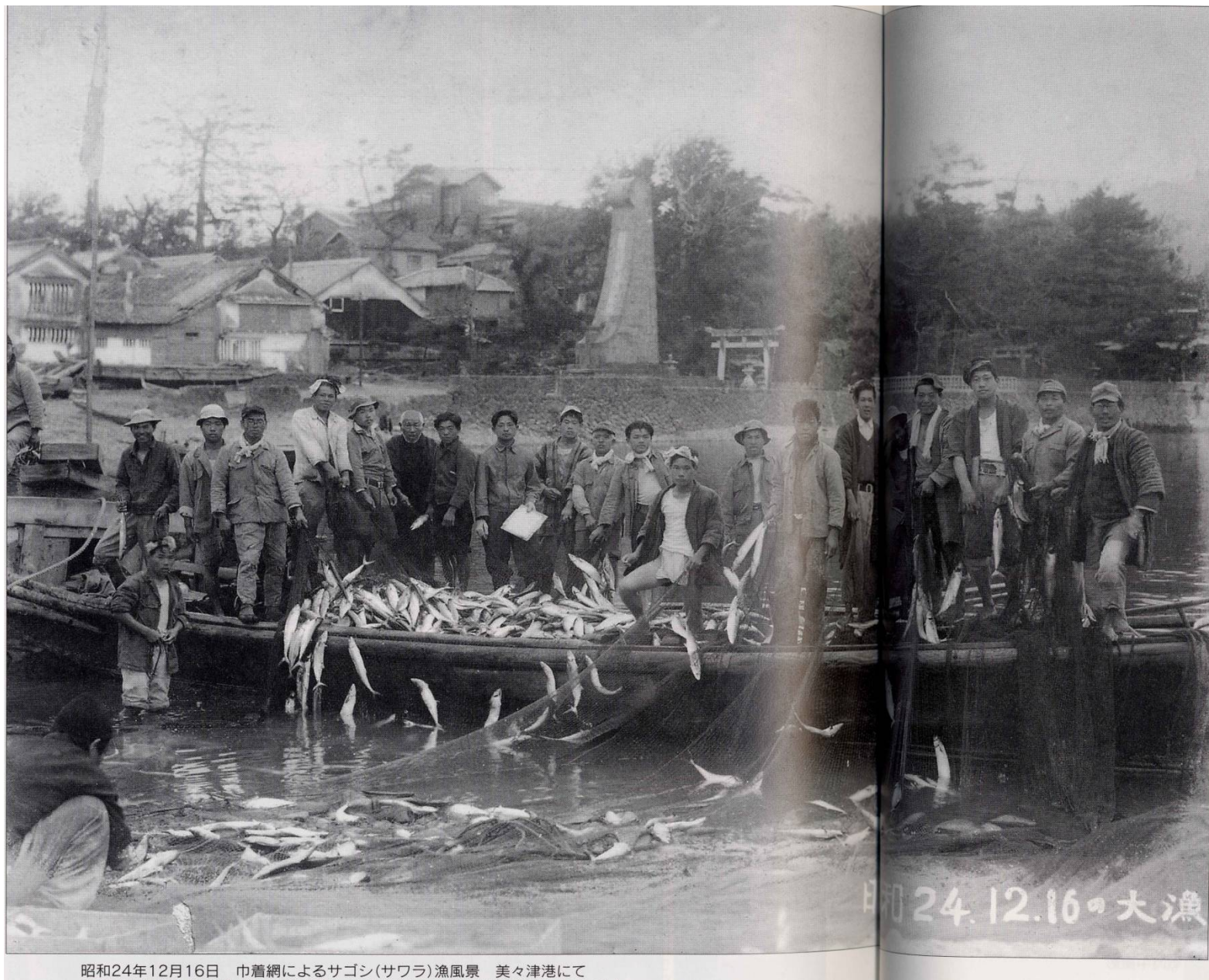
日向市のフクト浦に漂着した台湾のライターを見せて頂いた。先頃、宮崎の青島周辺の浜を歩いたら、中国、韓国、台湾からの珍しい漂着には驚いたが、黒潮の海上の道は世界と通じていることを感じた。

石井 忠（漂着物学会会長）



地図作成 広野 司





昭和24年12月16日 巾着網によるサゴシ(サワラ)漁風景 美々津港にて

昭和24.12.16の大漁

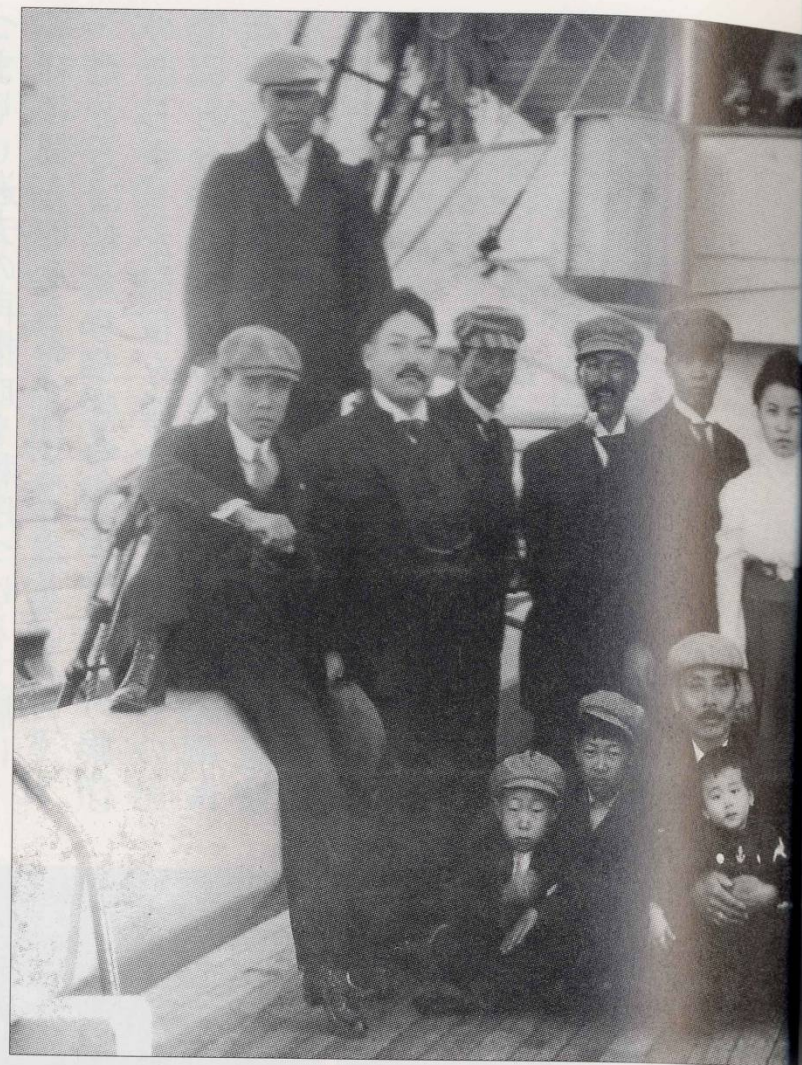
















田中新 ロサンゼルスにて 1910年代（明治末から大正初）



田中新は昭和の初めに帰国。昭和4年に郷里で結婚し、2男2女を得た。  
同34年5月、日向市曾根で72年の生涯を閉じた。  
田中新の米国時代のアルバムを所蔵する次女のノ瀬和子は、父の死後、アルバムに父とその兄弟の姿を認めては、父の人生をなぞるかのように「父」「兄」と次々にしるしをつけていった。

- ・「家族アルバム」

家族：過去を再構成する持続的集団

記憶を共有・伝承する

普通の人々はどのように「近代」と出会ったか

→ 歴史の全体性を回復する

- ・その読み取り

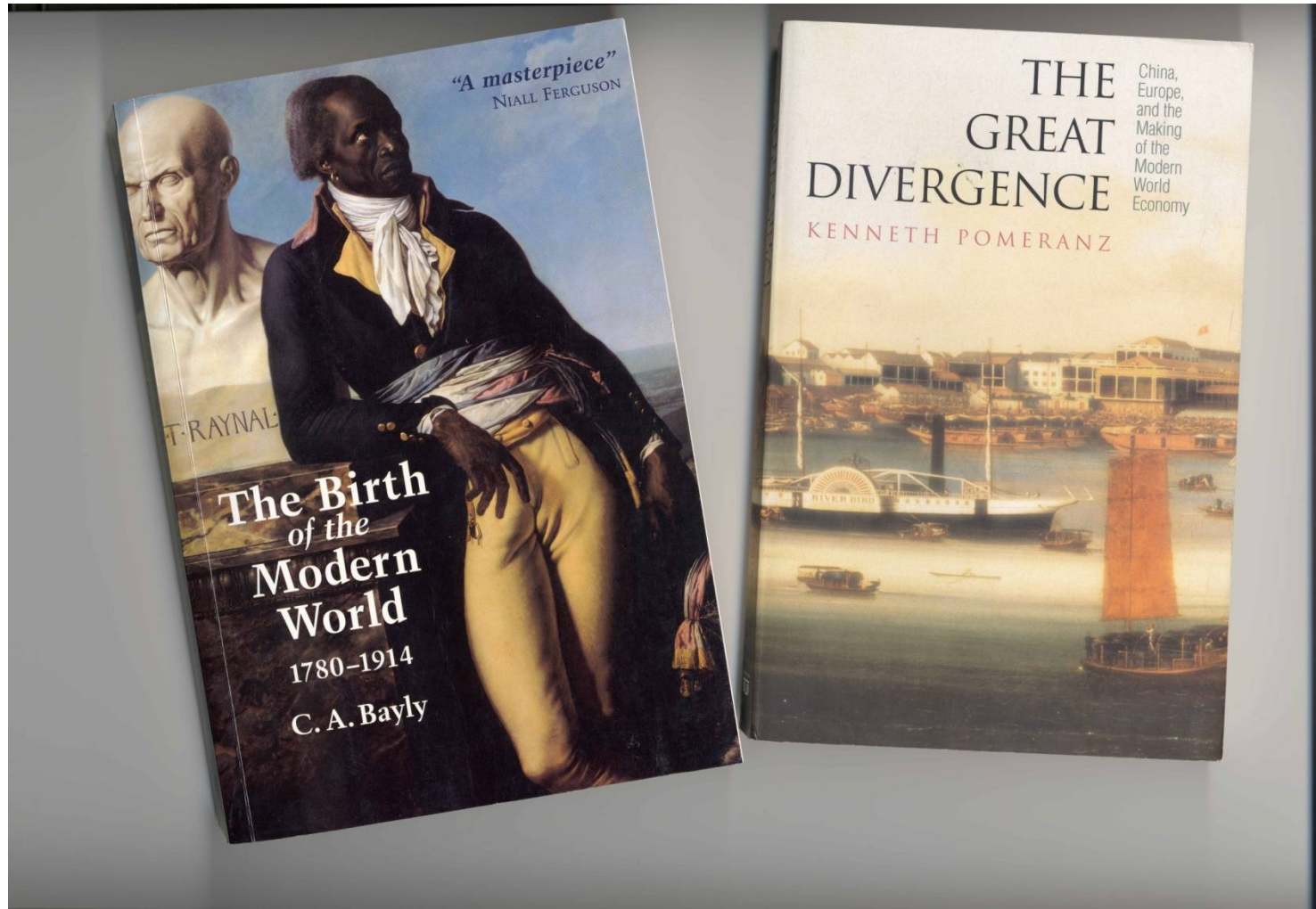
類型的 かつ 生活の多様性

地域社会におけるネットワークと移動

- ・家族史の限界

国家の行動や経済の変動に対しては受動的

## 4. 代案2 グローバルヒストリー



左: John Wiley & Sons, Inc

右: Detail of "Guangzhou Factories", 1855-1856, SUNQUA, Oil on canvas  
Hong Kong Museum of Art Collection

- 「近代」の理解

- 世界市場による経済統合

- 国際標準の生成

- 服装・髪型

- 科学技術・その表記法

- 主権 国民国家。。。

- 均質化と差異（アイデンティティ問題）

- 長期問題の理解

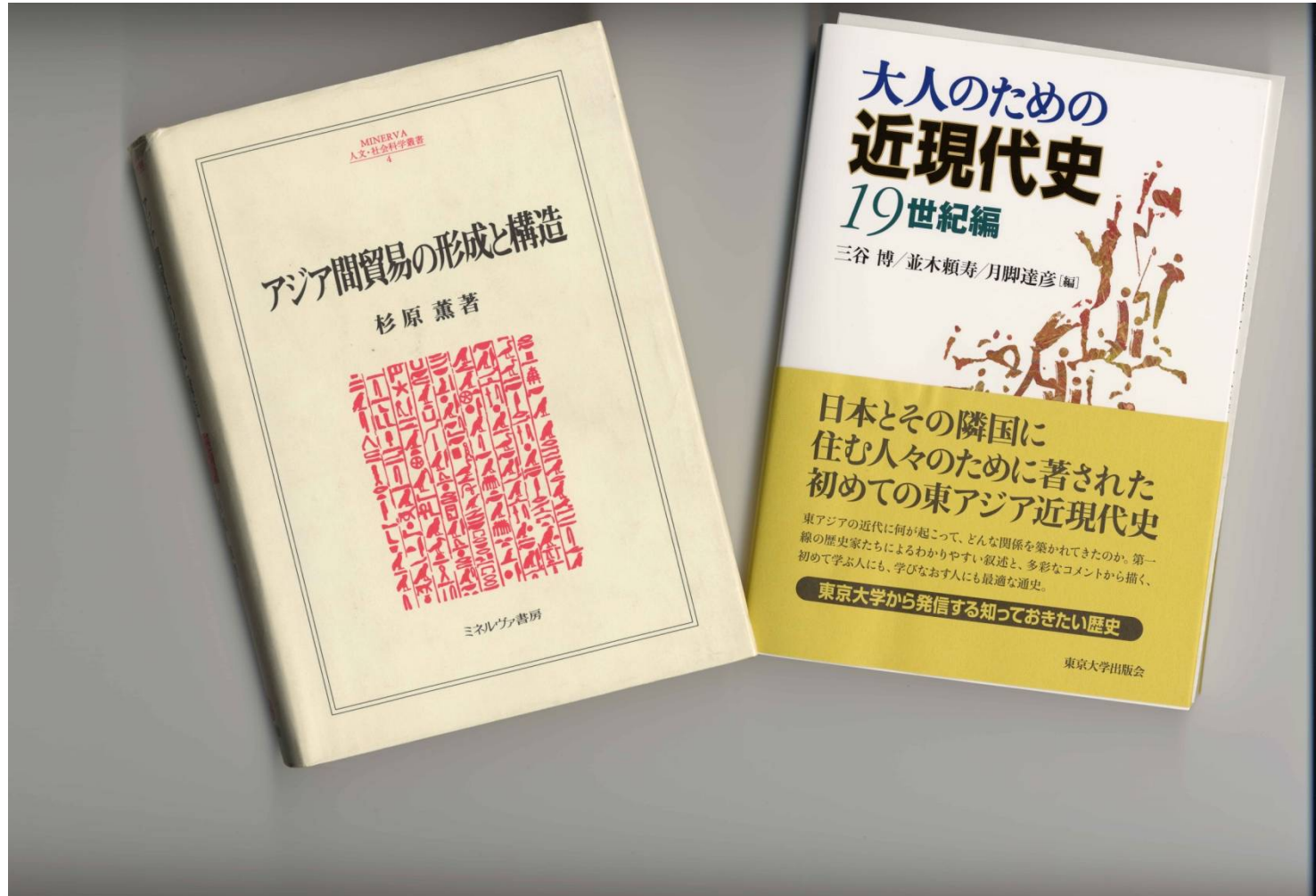
- 感染症

- 資源環境問題

- 難点      ▪ 史料の量・距離

- 地域的偏り

## 5. 代案3 リージョナル・ヒストリー



左: ミネルヴァ書房  
右: 東京大学出版会

- ・国民内部の視点では見えないものを可視化

他国民の視点・制度慣習・文化

経済的・文化的つながり

- ・史料に直接依拠しやすい

- ・問題点： 国民史の寄せ集め？

1) 諸関係・国際標準の生成の記述

2) 多声的記述法

保苅実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』

# 結び

## 1. 短期問題

「いま生きている、悪しき記憶」

日本側：「近現代史」の重要性

近隣側：自己解放

両者：対話による相互解放

## 2. 長期問題

資源環境問題。。。理系との連携

難しい問題ほど、知的創造の糧となる